



発行 大阪乾癬患者友の会(梯の会)
編集 友の会編集委員

特集

第22回学習懇談会in奈良



・・・ Index ・・・

・会長挨拶	P1	・興福寺ツアー	P7
・事業報告・計画	P2	・高知患者会設立	P8
・決算報告・予算案	P3	・「女性の会」の集い	P8
・第22回学習会	P4	・生物学的製剤認可へ	P9
・患者体験談	P65	・乾癬Q&A	P10
		・お知らせなど	P12

平成22年()挨拶

更に充実した患者会へ

大阪乾癬患者友の会(梯の会) 会長 岡田

会員の皆様平成二十二年度の始まりにあたってのご挨拶をさせていただきます。

昨年度(平成二十一年度)は全国乾癬患者会と合同で乾癬の新薬早期承認のための署名活動が実り生物学的製剤の乾癬への使用の承認を得ることができ、年明け早々にも利用可能になりそうな情勢です。(この印刷物がお手元に届くときには利用できるようになっているかもしれません)。また奈良県奈良市での学習懇談会も開催することができました。また、引き続き交流行事の充実を図りました。学会関連では四月の日本皮膚科学会(福岡)での展示協力、五月の臨床皮膚科学会(高知)での展示、学習会の開催、九月の乾癬学会(東京)の展示および学習懇談会を全国の患者会と共同で運営してまいりました。五月には京都府立植物園での交流行事、十一月には奈良での交流行事、その他二月、七月には三重の会に加わっての行事等も行ってきま

した。また日生病院における「日生」地区懇談会も開催することができました。平成二十二年度は二十一年度の活動を継続し、さらに会の活動を拡大していくため次の項目を重点目標として会の運営を行いたいと思います。

①内外での交流の拡大

交流行事の開催、地区交流会の拡大、全国の患者会との活動の拡大を図る。他会との関係等の見直しも必要ですが、回数が増える中で交流を深める、多くのものを得られるようにしたいです。日本乾癬患者連合の組織化を進める。

②近畿地方での会員の発掘

当会は発足の経緯が阪大を中心に活動していますが、阪大および関連病院以外の医療機関に通院されている皆様に情報提供が十分でないところがあります。一昨年より継続している大阪を出ての学習会開催を続け、引き続き近隣の医大の医師に講演等のご協力をいただく中、患者会の存

在をさらに知っていただいております。学習懇談会の開催を大阪周辺だけでなく近畿圏に広げていき、会の行事に参加が困難であった皆様にも情報と交流の場を提供するような機会を作っていきます。またご要望等があれば新しいローカルな患者会の設立のお手伝いもしたいと考えています。

③NPO法人化への検討

会の運営基盤充実のためNPO法人化の是非への検討を引き続き進めていきたいと考えています。十九年度に全国の会で相談の結果、当面は、全国乾癬患者会連絡会をバーチャルなかたちで結成しその会を順次大きく育てていくよう方向性が協議されています。NPO法人化等も全国の会としての動きも重要になるのではないかと考えています。

④定例行事の運営

定例総会、会報、幹事会その他恒例の行事を充実した内容で運営します。恒例の学習懇談会に関しては講師を最近の会のように医師に限らず医療関係者に広げ、また毎回二題以上の講演を行って参加者の様々なニーズに添えていきたいと考えています。

⑤交流行事の充実

昨年にも増して交流行事の充実に努力したいと思っております。会員の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

【2009（H21） 年度行事総括】

項目	回数	内容	時期	備考
定例総会・学習懇談会	2回	日生、奈良	6, 11月	
会報発行	4回		2, 5, 8, 11月	
幹事会	12回	会の運営	毎月	西区民センターにて
乾癬学会	1回	東京	9月	企画運営
皮膚科学会	1回	福岡	4月	企画運営
臨床皮膚科学会	1回	高知	5月	企画運営、学習会開催
三重の行事参加	2回	温泉、海水浴	8月	数名参加
「日生」地区懇談会	3回	日生病院での患者 交流会		企画運営

【2010（H22） 年度行事計画】

項目	回数	内容	時期	備考
定例総会・学習懇談会	2回	住友病院（春）日 生病院、阪大等	4/17, 11月	春は日本皮膚科学会にご参加の全国の相談医等の先生方の便を考え同時期に学会会場に隣接する住友病院にて学習会を開催いたします。
会員交流会	2回	未定	未定	小規模な茶話会、屋外活動等何らかの形で開催します。昨年の日本建築案内ツアーも一つの候補です。
会報発行	4回		2, 5, 8, 11月	例年通り発刊の予定をしています。
幹事会	12回	会の運営	毎月第二 土曜日	大阪市立西区民センターにて原則14時より
乾癬学会	1回	山口	9月3-4	大分と大阪の会が近隣ですので協力して行事等の開催ほかを準備します。
皮膚科学会	1回	大阪	4月16-18	今回は大阪で開催のため展示等の幹事を務めます。
臨床皮膚科学会	1回		5月	2名派遣
「日生」地区懇談会	3回	日生病院での交流 会	4/13, 7/1 5, 10/19	企画運営
三重の行事参加	2回	温泉、海水浴	2月8月	数名参加（非公式行事）
10周年記念誌発刊				今年度早期に発刊予定

2009年度収支決算報告書(自:2009年1月1日～至:12月31日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	440,006	通信費	162,080
年会費入金 @3,000円x204名分	612,000	交通費	116,640
会報・小冊子販売	500	印刷費	159,909
雑収入	64,018	講演会費	86,736
寄付	66,460	交流費	0
10周年記念行事等積立金	400,000	学会費	151,360
		事務費	3,231
		幹事会・会場費	19,320
		雑費	44,024
		10周年記念行事等積立金	400,000
		次年度繰越金	439,684
合計	1,582,984	合計	1,582,984
大阪乾癬患者友の会		上記収支においてすべての帳票を調べた結果 収支ともに誤りなきことを証します。	
会計 池内清貴			
		2010年1月9日 会計監査 加納修二	

2010年度運営予算書(自:2010年1月1日～至:12月31日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	439,684	通信費	100,000
本年度会費収入見込 @3,000円x200名	600,000	交通費	110,000
10周年記念行事等積立金	400,000	印刷費	80,000
		講演会費	120,000
		交流費	5,000
		学会費	150,000
		事務費	5,000
		幹事会・会場費	20,000
		雑費	10,000
		10周年記念誌費	400,000
		日本乾癬患者連合会費	10,000
		補正予算又は次年度繰越	429,684
合計	1,439,684	合計	1,439,684
上記2010年度予算案策定しました。		大阪乾癬患者友の会	幹事会
2010年1月9日			

第22回学習会行われる

奈良で初の学習会を開催 70名以上が参加

昨年十一月二十八日(土)に第二十二回大阪乾癬患者友の会学習懇談会が奈良市で行われました。今回は一昨年十一月に滋賀県大津市で開いた会に引き続き、府内以外の人にも出来るだけ参加してもらおうという主旨のもと、大阪府以外の地で開催されたものです。

地元誌や朝日新聞・産経新聞の奈良版に案内が掲載され、また本会相談医の東山真里先生がラジオのNHK第一放送でPRして頂いた事もあり、約七十名の参加がありました。半数以上が地元の方でした。会場は近鉄奈良駅から歩いて五分ぐらいの「奈良マーチャントシードセンター」で行われました。

午後一時より受付が始まり、一時半からプログラムがスタートしました。岡田会長、東山先生の挨拶の後、先に発足した日本乾癬患者連合会の会長である佐々木氏より、全国の会が協力して取り組んできた生物学的製剤早期承認への要請署名が功を奏して、乾癬治療への保険適用が認可される見込みであるとお話があり、会場内からも大きな拍手が起こりました。

その後、副会長の妻木氏による体験談がありました。自身の乾癬の病歴などを時にユーモアを巧みに取り入れ、場内の笑いを誘いながらも、乾癬に負けず前向きに頑張っておられる姿勢を示されました。特にスト



会場のマーチャントシードセンター

レスを解消していくことの大切さに力点を置かれていたと思います。

医療講演は、今回奈良での開催ということもあり、「乾癬：どんな病気？」というテーマで、奈良県立医科大学皮膚科学教室准教授である小林信彦先生がお話しして下さいました。二時間近く熱の行った講演で、初めて学習会に参加されている人も多いということを意識しながら、乾癬の病態、治療法について、日常的に気をつけなければならないことから、最先端の治療まで、あらゆる面に亘って詳しくお話しをして頂きました。乾癬はどういう病気なのか、どのような治療がなされているのかなどが非常によく分かったと思います。

質疑応答では講演に対する質問やその他乾癬に関する様々な質問が、

あらかじめ配布しておいた質問用紙によって行われ、小林先生や東山先生が丁寧に答えて下さいました。

講演に引き続き下の階で、個別医療相談会と参加者交流会が行われ、これも多くの参加者がありました。全体会場ではなかなか言えないような個人的な質問にも、東山先生と小林先生が個別相談コーナーで相談に乗って下さり、またテーブルではお茶とお菓子を片手に話が弾み、楽しい交流会になりました。

五時頃に終了ということになりましたが、初めて奈良の地で行った学習会は成功の裡に終わりました。今後も大阪乾癬患者会(梯の会)では、兵庫や京都などでの開催を考えていきたいと思っています。

尚今回学習会だけではなく、午前中に、本会副会長で、高名な建築家でもある妻木氏による興福寺周辺見学ツアーが行われ、これも非常に楽しい時間となりました(後掲しています)。

ホームページでもご覧いただけます <http://derma.med.osaka-u.ac.jp/pro/>

大阪乾癬患者友の会(梯の会) 一般来訪歓迎

第22回学習会in奈良

学習 「乾癬—どんな病気？」
講演 小林信彦先生
(奈良県立医科大学皮膚科准教授)

患者体験談：(大阪乾癬患者友の会会員)

質疑応答：講演およびその他についてのQ&A

参加者交流会 & 個別医療相談会

平成21年 11月28日(土) 13:15-16:40

13:15	受付
13:30	開会式
13:45	講演
14:00	質疑応答
14:15	休憩
14:30	個別相談
15:20	参加者交流会
16:40	閉会

会場案内図

学習会ポスター

乾癬学習会in奈良の様子



受付風景



近鉄奈良駅に集合



会員体験談



会長挨拶



質疑応答の時間



小林信彦先生による講演



懇親会風景



懇親会での個別医療相談

「ストレスと乾癬」

副会長 妻木

第二十二回学習会に奈良で、患者

体験談をさせて頂きました。病歴としては、御出席の方々に比べ比較的短い経験であることから、私がやって良いものか、と始めは躊躇していたのですが、しかし、各自顔が異なるように、それらの御経験も異なり、その病歴の長い方の御経験通り、短い経験のものが病気と闘っているわけではなく、病状も悩みもそれぞれ異なっているものではないか、その話を聞くことで、新しい認識も生まれ、考え方の変化に材料を与え、広い世界の中でこの病気と闘っているのではないかと考え、恥を承知で引き受け、話をさせて頂きました。

この話の根拠は、今までその都度出席させて頂いている学習会や懇談会で、皆様方からお考えになって、一日中乾癬のことをお考えになって、「薬を一ヶ月も塗っているのに変化がない」「この病気は治るのですか?」といったことです。この考え方が困る、一日中乾癬のことを考えておられる方々のいられることに気が

ました。

一方病気の原因には必ずといって良い位ストレスがあります。乾癬もこの例に洩れずストレスが原因になっているのです。そのストレスというのは一般生活の中のストレスだと思っていたのですが、この乾癬自身がストレスになっていることに気付いたのです。この乾癬に対する日々の思いを少しでも少なくすることで、病気に対する思いを軽くすることが出来、日々の生活を明るくすることがなり、乾癬からの重圧から少しでも逃れることが出来、やがてこの病気の完治も早くなるのではないかと考えたのです。

私は建築関係で生きてきた人間です。私の性質と仕事の関係から、人々との考え方の迎合は極端に避けて生きてきました。その結果いつも一人で、仕事のうまく行かなかった時など、非常に悩み、これがストレスの固まりとなって大きいのしかかってまいります。この時私は、仕事に關係のない建築、その建築に關係の深

い庭園を見てストレスの分散を図ってきたのです。これは建築ばかりではありません。どこにでもものの考え方の切り口を変える材料は多いと思います。その一つの方法として古い建築、素晴らしい庭、そしてそれに纏わる歴史等を考えていく中で、ストレスの重圧が少しでも薄らぐのではないかと考え、午前中の興福寺の見学を提案し、実現したのです。

乾癬という病気はまだまだ解らないところも多く、治り難いものだと聞いております。この病とは長い付き合いが必要ですが、あまり気にならないことも大切だと思っています。だからといってほったらかしにしてはいけません。先生の指示に忠実に従い、実行することが大切であることは言うまでもありません。気にしないで、する事だけはちゃんとすること、このことが乾癬の方々の生活していく一つの方法ではないかと、乾癬と長い付き合い合い、京都銀行でいうと思うっております。

といった内容の話をさせて頂きました。

なお、今後見学会の御希望がありましたらお知らせ下さい。その節には見たい所の御希望もお知らせ頂ければ幸甚に存ずる次第です。

2010年(平成22年) 日生地区懇談会について

下記の通り日程が決まりました。ぜひ皆さんご参加下さい。

- 期日
- ★ 第12回 4月13日(火)
- ★ 第13回 7月15日(木)
- ★ 第15回 10月19日(火)
- 場所
- ★ 日生病院 2階カンファレンスルーム(変更する場合があります)



晩秋の奈良を満喫

興福寺周辺 ツアー実施

副会長 妻木氏の案内で

十一月二十八日の第二十二回学習会に先だって、午前中に興福寺案内ツアーが行われました。これは、建築の専門家であり、また大学客員教授も務めておられる本会の副会長妻木氏が、学習会会場近くにある興福寺周辺の建物について説明・案内して頂くという企画でしたが、二十名あまりが参加し、妻木氏の名解説に聞き入っていました。

当日は午前十時に近鉄奈良駅東口に集合ということになりました。はたしてどれぐらいの人が集まるか、企画前は少し心配もされましたが、北海道から日本乾癬患者連合会の会長である佐々木氏（夫妻で参加）、また愛知・三重の患者会からも参加があり、約二十名ということになりました。

駅から興福寺までは五分程度です。

通常観光客は有名な五重塔に直行することが多いのですが、今回は歴史的建築物に非常に詳しい妻木氏のガイドによって、ひと味もふた味も違うツアーとなりました。観光客があまり立ち止まらないような建物もじっくり

り説明して頂きました。最初に国宝の北円堂を見学し、さらに三重塔、そして南円堂と順番に巡っていきました。妻木氏は一つ一つについて、その建築の由来、歴史的・文化的・建築的な意義を私達にも大変わかりやすく説明して頂きました。何度も興福寺を訪れた人にとっても非常に価値のある解説だったと思います。普段気にも留めずに素通りしてしまうような建物が非常に由緒あるものであることがわかり、思わず目が見開かれる思いでした。

後半は観光客も多い五重塔・東金堂へ移動し、さらに丁寧な説明をして頂きました。説明の間は雨も上がり、参加者全員古都の情緒にたつぷり浸り、また沢山の知識を身につけることができ、興福寺を新たな視点で見ることができるようになったと

思います。

今回のツアーは昨年五月の京都植物園の親睦会の後、有志が上賀茂神社へ行き、そこで妻木氏の素晴らしい解説に感動し、ぜひ今回歴史的遺産の多い奈良の地で学習会を行うに当たって、同様の案内ツアーを企画してほしいという声に妻木氏が快く応じて下さり実現したものです。ツアーは約二時間余りで、そのあと駅周辺に戻り各自思い思いの店で食事となりました。

また今後もこうしたツアーを企画していきたいと幹事会では考えています。



妻木氏の説明に聞き入る



最後に五重塔(国宝・室町時代)で記念写真



国宝 三重塔(鎌倉時代)



国宝 北円堂(鎌倉時代)

全国で十四番目

高知で患者会設立

大阪乾癬患者会からも四名が応援

平成十八年の乾癬学会時での学習会

での四国へ患者会をという思いが、平成二十一年日本臨床皮膚科医会時に再度学習会を開催することができ、そのときに集まった有志により高知にて患者会をという動きになりました。十一月二十二日(日)に高知大学医学部の場所をお借りし、高知大学の佐野教授、樽谷准教授、三好講師のご協力と高知新聞の広報活動により三十名ほどの参加者を得て成功裡に会が開催されました。会場を埋め尽くした参加者により会を発足させることができました。十分に発足に向けて準備がなされ、携わった準備会役員の皆様の熱意を感じました。今回発足総会では、会の規約、役員、運営方針等が手際よく決定され順調なスタートを切ったと思います。これから近隣の会として力を合わせて患者会の発展に向けて努力していけたらと感じた次第です。(会長 岡田)

※会では、今後学習会や情報交換会などを企画されており、十一月二十二日現在の会員数は二十二名ということですが、また会長には吉岡氏が就

任されたということです。大阪乾癬患者会(梯の会)では、今後お互いに協力しながら、交流を深めていきたいと考えています。

「女性の会」開かれる

女同士、本音で楽しくトーク

かねてより梯の会会員女子だけで気軽に話ができる機会を持たせたいと希望があり、平成二十一年十二月十九日(土) 第一回『梯の会..女子会』(仮称)を設けました。

初めての事なので今回は幹事女子だけで集まることにし、細かく時間を決めずに“みんなで楽しく”を課題に集合時間を午前十一時、宗右衛門町のかに道楽前で集まる事にしました。今年一番の寒い日でしたが、参加者は九名。



高知患者会設立総会の様子

普段、通り過ぎるだけの道頓堀(日本橋道頓堀橋)を、ゆつくりとお喋りをしながら歩きました。たこ焼きやお好み焼き屋が多く、朝から人が並んでいました。また、架け替え工事が済んだ道頓堀川には遊歩道が出来、川沿いに並ぶお店からも入る入口があり、観覧車や美味しそうな絵の看板など景色も楽しめる様になっていました。

三十分ほどで目的地に到着し、さっそく昼食です。松竹座の下にある和食店でくみ上げ豆腐のお膳を食べま

した。「幹事会の後にコーヒを飲むことがあっても、今日のような感じではない」「女同士だと、気を使わずに居れる」など、いつもと違った雰囲気での病気のことから患者会のこと、趣味の話や家族のこと(主人も含む)など楽しく、おだやかな時間を過ごしました。その中で、みんなが一番に考えていたのは『梯の会のこれから』の事でした。現状、男性の方が主に頑張ってくれていますが、やはり女性の意見や気遣いも入るとより細やかで良くなるのではないかと私達も、もつと何か出来ないか?男性だけだと意見が固くなってしまうのではないかと?など幹事会では言えなかった意見が出されました。次年度からは女性の副会長を選出して、もつと積極的に幹事会には参加することを確認しました。

患者会の主旨である患者同士のコミュニケーションの場が増える事は、自身のQOLを高めるだけでなく会員増にも繋がります。これからも、色んなコミュニケーションの場を設け活動が続けていけるように、女子会一同、頑張っていきたいと気持ち新たにしたい一日でした。(森本)

※「女子会」では代表を幹事の吉岡さんが担当することになり、今後の計画はまだ未定ですが、年間二回ぐらい集まれるような機会を持っていきたいとのことです。その時には会員の皆様に「案内致します」。

署名活動が大きな成果

生物学的製剤認可へ

乾癬治療へ明るい展望

昨年から全国の患者会が協力して行ってきた生物学的製剤の乾癬治療への適用早期承認要請署名の努力が実を結び、この度「アダリムマブ・インフリキシマブ」の乾癬への保険適用が承認されました。全国乾癬患者連合会会長の佐々木憲夫氏より全国の患者会に嬉しいニュースが届きました。以下会長からの連絡です。

【皆さま、本日（09年12月21日）「厚生労働省 薬事・食品衛生審議会薬事分会」に於いて、アダリムマブ・インフリキシマブの乾癬への保険適用が承認されました。今後はただちに長妻厚生労働大臣に答申され来月にも保険使用となります。私たち全国の乾癬患者会は昨年12月から先月（09年11月末）まで「生物学的製剤早期承認・署名活動」を推進してきました。この間集まった署名の数は実に5万3千964筆。プロジェクトチーム発足時には予想すらしなかったこの膨大な署名によって、「通常なら3年は掛かる」といわれたものが、かくも早く承認されました。まさに今日は患者会の“力”を発揮した瞬間です。

この署名の広がりや、全国の患者会の会員の皆さんが創意工夫しながら、「乾癬」を自分の言葉と声で語り友人・知人のその理解を求めるといった活動を、一步一步進めた結果に他なりません。患者一人ひとりの力は小さいものですが、お互いを、そして自分自身を勇気づけ、更には乾癬の正しい知識を自ら学習することを通じて、初めて実現が可能となりました。当事者である患者自身がこうした声を上げるといった苦渋に満ちた活動の推進に心から感謝と敬意を表します。また、メディアに対しても有効な運動を展開しタイムリーで適正な報道がなされました。二度の記者会見（毎日、朝日、共同、読売、産経、東京、北海道、TBS・TV、NHK）や個別に三重や愛知・秋田においてもマスコミを通じ、広く社会に「乾癬」という病気の真の理解を求め、人々の心に届かせる活動を展開してきました今回の署名活動によって、どれだけ多くの国民にこの「乾癬」という病気を広く知って頂いたことかはかりしれません。そしてどれだけ多くの乾癬患者へ自信と勇気をあたえたことか。

最後になりましたが、終始全面的なバックアップをして頂いた日本皮膚科学会・飯島先生、同アドホック委員会の大槻先生はじめ多くの先生方、何度も厚労省へ同行して頂いた江藤先生、衛藤先生、そして全国の全ての相談医の先生に深甚の謝意を表します。私たち患者会はこの署名活動を通じて築き上げた全国の患者会の「絆」を更に発展させ、「乾癬患者の生活の質の向上」という一点の目標に向かって、更に前進します。】

生物学的製剤

生物学的製剤とは、最新のバイオテクノロジー技術を駆使して開発された新しい薬で、生物が産生した蛋白質を利用して作られています。関節リウマチの炎症や痛み・腫れ、そして骨や軟骨などの関節破壊を引き起こす原因となる物質を抑えることにより、その効果を発揮します。

「アダリムマブ(adalimumab) (商品名：ヒュミラ)」

遺伝子組換えによって作られたヒト型抗ヒトTNF- α モノクローナル抗体製剤（医薬品）です。抗体成分である蛋白配列が完全ヒト由来であるため、先行のキメラ抗体製剤よりも理論的に生体適合性が高い（より過敏症を起こしにくい）とされます。現在、国内においては関節リウマチに対する効能・効果（保険適用）が認められています。2週間に1回投与されます。一定の条件を満たした患者においては自己投与も認められています。1回40mg 2週に1回皮下注射（患者さんご自身で注射することもできます）。

「インフリキシマブ (Infliximab) (商品名：レミケード)」

抗ヒトTNF- α モノクローナル抗体である。医薬品として応用されており、レミケード (Remicade) という商品名です。レミケードは、海外では欧米を中心にすでに80カ国以上で、100万人以上の関節リウマチやクローン病の患者さんに使用されている薬剤です。日本においては、3万人以上の患者様に投与されています。1回3mg/kgを点滴静注、初回投与後、2、6週に投与し、以降8週間の間隔で投与します。

癬 乾

Q & A

第21回学習会から

このQ & Aは昨年11月に日生病院で行われた第21回学習会で会場から寄せられた質問です。

◆回答Ⅱ梅垣知子先生、小林照明先生、吉川邦彦先生、吉良正治先生、山下利子先生

◆司会・進行Ⅱ東山真里先生

Q「ビタミンD3製剤の違いについて教えてください。」

A小林「現在処方できるのは、オキサロール・ドボネックス・ボンアルファ・ボンアルファハイと種類があります。先生によって使用基準を持たれている事と思いますが、私に關しましては、オキサロールはかなり炎症のある赤みの強い患者さんに刺激なく使って貰える。ドボネックスは濃度が高い分、浸潤の強いといえますか、分厚い様な表面が白く粉を



風景 答 疑 質 問 学 習 会

吹いた様な局面に効果が出やすい。ボンアルファハイは使用基準が一日一回外用という事でなかなか二回塗れない忙しい人に出す、一日一回ですがボンアルファハイはオキサロールやドボネックスより経済的負担が高いと云う話をして納得して貰ったらボンアルファハイを出させて貰っています。」

Q「外用剤のマイザーとオキサロールについて教えてください。」

A梅垣「オキサロールはD3軟膏でマイザーはベリーストロングに分類される結構強いステロイドです。ですので新しくできはじめたところや痒みが強くてポリポリ掻いてしまう様な場合、最初にマイザーを使いま

す。落ち着いてきてなかなか引きが悪いけど軟膏で治療しなければならぬ時、オキサロールで治療するのが良いと思います。もし、二度塗りできる時間があれば、ステロイドとD3は二度塗りの方が相乗効果がありますので、両方使われた方が良いと思います。」

A小林「私はD3は濃度依存作用が強いので、なるべく薄めない様に指示しています。なかなか一日一回しか塗れない人の対処として混ぜて処方する事もあります。混ぜますと濃度が下がってしまいますので、D3は出来るだけそのまま使って頂く。ステロイドはもとも作用が強いので希釈しても効果が出ますので、皮疹の面積が広いときにはワセリンとかアズームとか他の軟膏で希釈して対処して頂くというのが私の方針です。」

Q「エパデールの乾癬治療の評価について」

A吉川「エパデール、ドキソヘキサ塩酸は乾癬に良いという事がありまして、私も一時期使ってみた事があります。しかしながらそれだけで乾癬が良くなるという、著明な経験はしておりません。イワシとか青い皮膚の魚が良いと云われていますけれども、魚の脂肪の中に多く含まれる油類が錠剤になっているものそれだけで乾癬が治るわけではありません。あくまでも行われている治療の補助

的なもので一般的に云われているサプリメントに位置付けられるお薬だと思えます。」

Q「ネオールで血圧が上がって苦しいです。新しい薬の生物学的製剤等について教えてください。」

A吉良「新しいお薬は生物学的製剤と云われるのですが、患者会や私共皮膚科医も含め厚労省に早く乾癬の患者さんに使える様に申請を行っているところ。残念ながら厚労省という所は色々な問題を抱えて忙しいという状況で、なかなかお役人がすぐにOKを出して頂けない状況で、何時になるか分からない。現在治療が終了している薬は免疫に関する「マブ」²という物質をブロックするといいますが阻止する薬です。いくつか種類がありますが、重篤な副作用は感染症ですね。特に結核です。ご年配の方などは若い時自然に結核に罹っている方がいて、これを使用すると結核が再燃するのが生物学的製剤の重篤な副作用と云われています。現在その薬を使う人には前もって結核があるかしっかりと検査をして、場合によっては結核の再発を予防する薬を使いながら生物学的製剤を使用する。そうすれば副作用はそれ程心配いらないと考えています。欧米では既に使われていますが使用経験が浅くて、新しい副作用が出てくる可能性もあります。医師も多くの数を使っていないので、薬を使える様に

なった段階で主治医の話を良く聞いて頂いて治療に参加して頂くのが必要だと思えます。

Q 「生物学的製剤について」

A 小林 「私は今開業していますので、患者さんが一番気にされるのはコストです。既にリウマチは適用疾患で開業医でも所々使われています。再診料なり注射の手技・点滴の手技代など加わるわけですから、患者さんにとっては効くことに加えて経済的負担がかなりになります。大学病院で使われるのは良いかもしれませんが、開業医では患者さんと経済的負担を話しながら詰めていかないとなかなか踏み切れない治療法かなと思います。アメリカの医師と話しながら、アメリカでは保険の種



丁寧に質問に答えて下さる先生方

類が色々あって高額の治療を認めてくれる保険に入っている患者さんに生物学的製剤の説明をする。それに入っていない人には話をしないとのことでも聞いた事がありますので、普及には時間がかかるかもしれません。」

A 東山 「まだ沢山の患者さんに使っていないので、長期の副作用などは分からないところもあります。個々の患者さんによって既往歴も調べながら、免疫抑制剤ですので感染症です。リウマチでは高齢の方で肺炎を起こした例も聞いています。今後沢山使われますと、もっと情報も得られると思います。ただ、ネオールやチガソンなどに比べると、臓器障害がごく少ないので、腎臓や肝臓が悪くなる事はありません。関節炎に有効性が高いと云われていますので、そういう患者さんには効果的に使えると思います。」

A 吉川 「先程副作用の感染症で吉良先生が結核に触れられました。私が医者になった頃は日本の結核はコントロールがついてきた頃でしたが、重要な病気でした。それまでは大変な国民病だった訳ですね。克服された様にみえていましたが、じわじわ続いている。この間もどこか大阪の飲食店で発生し、職員が発症して同じ職場で働いていた人に感染していたということがありました。初期にははつきりとした自覚症状がないのに感染してくるのが怖いところです。

我々の年代の人は古い結核の感染病巣を持つている人があり結核結節というものがありまして、体の免疫が閉じ込めているのです。病気として症状が出ていないのです。閉じ込めるのにINF γ が重要な役割をしているのですが、生物学的製剤がその作用を解除してしまいますので、くれぐれも注意をしなければいけない事です。皆様が生物学的製剤治療を受けられる事になった時は、若い時に結核の影がなかったかどうか主治医に積極的に言ってお下さい。でない若您先生方は結核の厄介さを実感として持っておられない、理屈としては持つておられますが、患者側から言う事が予防に大切だと思います。」

Q 「昭和四十六年より乾癬が出来、最初に出来たのが慢性化し、兄弟三人も関節症性乾癬で日常生活にも毎日事欠く状況です。これについてアドバイス如何でしょうか。」

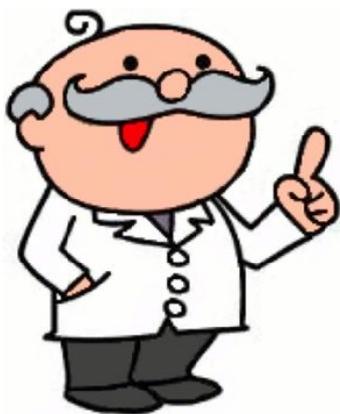
A 吉良 「関節症性乾癬は梅垣先生の話にもありました様に乾癬の一つの型ですが、非常に治りにくい病態であるのは間違いありませんので、困っておられるのだと思います。この方につきましては、この後の懇親会で私の方に直接来て頂いて具体的な相談に乗った方が良いと思いますので、来て下さい。」

Q 「生活習慣病との因果関係はあるのでしょうか。」

A 梅垣 「糖尿病というより、一般的

に最近メタボリックシンドロームとひとくくりで言われる事が多いと思います。糖尿病・高血圧・高脂血症いわゆる肥満ですね。そういったものがトータルとして乾癬を悪くしていると思えます。特に肥満に関して言いますと、糖尿病の原因にもなりますし、肥満に於ける脂肪が増える事で乾癬を抑える物質が減ってしまうというデータもあります。糖尿病だけが乾癬と関係あると言われているので、メタボリックシンドロームは改善していった方が良いと思えます。」

東山 「個人的な質問も来ていますが、この後懇親会で相談医に個別に相談して頂きたいと思えます。相談医の先生方有り難うございました。」



お知らせ

★編集局では皆さんの原稿を募集しています。乾癬についての自分の体験、自分が行っている治療法、日常生活で心がけていること、乾癬治療に役立った事、その他何でも構いません。エッセイ・詩・短歌・俳句などもぜひ投稿してください。お待ちしております。

★「PSORIA NEWS」では「乾癬Q&A」コーナーを設けています。症状や治療法、薬など乾癬に関する質問がありましたら編集局までお寄せ下さい。代表的な質問などを選んで、相談医の先生方に会報上で答えて頂きます。

★「大阪乾癬患者友の会」の幹事会は全て会員や相談医の方のボランティアで成り立っています。会では幹事になって頂ける方を募集しています。幹事の人数が少なく大変困っています。自分のやれる範囲でももちろん結構ですから、ぜひお手伝い下さい。当面次の仕事をお手伝い頂ける方を探しています。 1) 定例総会等行事のボランティア 2) 会報送付作業のボランティア 3) ホームページ管理等のボランティア 4) 幹事会参加メンバー(5名程度)

ホームページのご案内

大阪乾癬患者友の会(梯の会)では、ホームページを作成・運用しております。乾癬についての治療法・薬・生活上の注意や総会のお知らせ・会報の抜粋・掲示板・乾癬関係のホームページへのリンクなどが掲載してあり、役に立つ情報が一杯です。ぜひ御覧になって下さい。ホームページアドレスは下記の通りです。



<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/psor/>

会員の皆さまへ 会費納入のお願い

年会費を下記の要領で徴収させていただいております。より充実した会の運営のため何卒、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

会 費：年間 3000円

納入方法：郵便振替

納入期限：毎年3月末日までに納入お願いします。振込用紙に必要事項を記入のうえ郵便局の振り替え口座に振り込みをお願いします。会費につきましては、未納の場合、自動的に退会となります。

郵便振替 口座番号：0920・2・155745 「大阪乾癬患者友の会」

「PSORIA NEWS」

第42号 2010年(平成22年)1月発行

発行：大阪乾癬患者友の会(梯の会)
 事務局：550-0012大阪市西区立売堀6丁目3番8号
 日本生命済生会附属日生病院皮膚科内
 TEL 06-6543-3581
 E-mail
 info-psoria1@derma.med.osaka-u.ac.jp
 発行責任者 岡田(会長) 小林(編集責任)

2010年 大阪乾癬患者友の会 幹事

会長：岡田	会報編集：小林	幹事：武居
副会長：妻木	会報編集：高橋	幹事：吉田純
副会長：吉岡	広報：宮崎泰	幹事：吉田和
事務局長：中山	イベント：桔梗	幹事：北浦
会計：池内	幹事：山田	幹事：斉藤
会計監査：加納	幹事：宮崎茂	